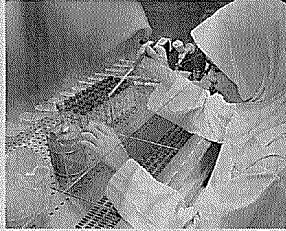


微生物研究で提携

新薬開発へ資源確保

【クアラルンプール＝山崎淳弘】バイオベンチャーのニムラ・ジェネティクス・ソリューションズ（NGS）、神奈川県厚木市、清田圭一社長）はマレーシア・サラワク州と、医薬品の元となる化合物を生成する微生物の共同研究で合意した。同州と共同研究するのはNGSが初めて。有用な化合物など研究成果について独占販売権を取得、豊富な研究用資源を確保し、新薬開発につなげたい考えだ。



クアラルンプールにあるNGSの研究所

生物の抽出は、NGSが自由に研究物を精製・分析し、既存の化合物情報と照らし合わせて効能などを探る。NGSは研究全般にわたり技術・ノウハウを供与する。共同研究で発見した新薬開発につながる可能性のある抽出物や化合物が豊富と言われている。土壌微生物研究の分野でマレーシアは微生物など生物資源の多様性では世界十二位に位置づけられ、なかでも東部ボルネオ島のサラワク州は資源が豊富と言われている。

共同研究はNGSのマレーシア現地法人とサラワク州政府機関で同州の生物資源を管理するサラワク生物多様性センター（SBC）が合意した。日系企業が微生物全般を対象とする共同研究で、資源国の政府機関と合意するのは珍しい。SBCは千五百万円（約四億円）を投じて今年九月までに「微生物研究所」を開設。熱帯雨林の樹木や土壌、水中などから採取した微生物や微



ニムラ・ジェネティクス・ソリューションズ（NGS）のCEO、アイルン・リン

東南アジアの各国は、微生物など生物資源の活用が躍起になっている。一九九三年の生物多様性条約の発効以来、資源国の権利を守るという動きが広がった。これを踏まえ、製薬などバイオ関連産業を自国の主要産業に育てたいとの戦略だ。今回の合意の狙いについて、SBCのアイルン

「技術の生かし方学ぶ」

・イェン最高経営責任者（CEO）に聞いた。――NGSに何を期待するの。――「研究技術と成果を生かすためのマーケティングの方法を学びたい。我々が資源を提供して、相互の利益につなげたい。

資源調査も重要だ

資源調査も重要だ。豊富な生物資源がどれだけの価値があるかという情報さえないのだから。――東南アジア各国と競争していくか。――「各国が生物資源の活用を本格的に考えている。日本が競争段階にあるとは思わない。技術と資金があるシンガポールには資源が少ない一方、

相手企業にNGSを選んだ理由

「（マレーシアでの過去の実績から）誠実なパートナーと判断した。最初から大企業と組むと意思疎通の難しさなど問題

「多いのではないかな」

「ある。ただ、今は今回の共同研究の質を高めることが重要だ。問題は協力企業の数ではない。良い友人なら絶交する必要もない」

2005年（平成17年）
1月28日（金）
日経産業新聞